

(前) 理事長 尾埜 善司

ロマン・ロラン(1866-1944)は二度の世界大戦を通じて戦争反対と平和のための社会組織の変革を世界に訴え、ファシズムと戦い、また生き方に悩んでいる万人のこころを慰め励ます文学や手紙を絶えず書きつつ、平和回復の前夜に世を去りました。敗戦後の混乱した日本で、実に多くの若者たちは、たましいの拠りどころとして、むさぼるようにロマン・ロランを読み、語り合い、その熱気は全国各地に拡がりました。

敗戦の翌年『ロマン・ロラン全集』の刊行を始めたみず書房が事務を執り、片山敏彦・宮本正清氏らが中心となって、1949年6月「日本・ロマン・ロランの友の会」が設立されました。このとき馳せ付けた若者たちの多くは、いまも各分野で活躍しています。「友の会」の集会、読書会が直ちに全国各地で始まりました。とりわけ際立ったのは、宮本氏を中心とする京都の毎月の集い、更に同氏と蛸原徳夫氏による大阪の毎月の集いで、私もそれらの青春の焰をわけもちました。

軍国主義に抵抗しつつ戦中戦後にわたりロマン・ロランの翻訳・紹介に献身し続けた宮本正清氏は、受け取った印税の貯金をはたいて、1971年京都銀閣寺のほとりに財団法人ロマン・ロラン研究所を設立しました。研究所は当時東京では衰退していた「友の会」の活動をも、機関紙「ユニテ」の続刊をふくめ全国的に承継して現在に及び、「友の会」設立50周年を迎えるに至ったのであります。